

ドイツ博物館協会
ドイツ連邦博物館教育連盟

博物館教育普及活動に関する品質規準



翻訳・編集：公益財団法人日本博物館協会
(協力：岡本美枝、ハイケ・パチケ)

博物館教育普及活動に関する品質規準

発行：登記社団ドイツ博物館協会、登記社団ドイツ連邦博物館教育連盟
協力：オーストリア博物館教育文化普及者連盟、メディアムス・スイス博物館教育普及専門職連盟

編集：Dr. Hannelore Kunz-Ott (ハンネローレ・クンツ=オット博士)
編集協力：Stefan Bresky (シュテファン・ブレスキー)、Antje Kaysers (アンティエ・カザース)、Karin Maaß (カーリン・マース)、Peter Schüller (ペーター・シュラー)、Ralph Stephan (ラルフ・シュテファン)、Prof. Dr. Gisela Weiß (ギーゼラ・ヴァイス教授)

原稿審査：Klaus Bzdziach (クラウス・ベジヤハ)
デザイン：blum Design & Kommunikation, Hamburg (ブルーム・デザイン&コミュニケーション社、ハンブルク)

表紙：Hamburger Kunsthalle (ハンブルガー・クンストハレ美術館)、写真：Verena Müller, Hannover (ヴェレーナ・ミュラー、ハノーヴァー)

印刷：Holzer Druck und Medien, Weiler i. Allgäu (ホルツァー印刷&メディア社、アルゴイ地方のヴァイラー)

資金提供：ドイツ連邦州文化財団

©登記社団ドイツ博物館協会、ベルリン、2008年11月

ISBN 978-3-9811983-2-4

目次

4	はじめに
6	序章
8	I 基本方針
10	II 博物館教育の内容
12	III 博物館教育の対象者
15	IV 博物館教育の方法
19	V 教育普及担当職員に求められるスキル
21	VI パートナー
23	博物館教育普及活動に必要な諸条件
25	著者一覧
27	註

はじめに

来館者を中心とした博物館づくりがますます重視されるようになり、ドイツ博物館協会が『博物館に関する規範』（訳注：原語は **Standards für Museen**）を規定したことに代表されるように、博物館としての標準についてより活発に議論されるようになった昨今の社会状況を受け、登記社団ドイツ連邦博物館教育連盟（訳注：以下、**BVMP : Bundesverband Museumspädagogik e.V.**）はこの度、博物館において質の高い教育普及活動を確保・提供するための基礎を文書としてまとめることにした。

BVMP が作成し、ドイツ博物館協会との協同で発表する本書の目的は、博物館教育普及活動という重要な課題において教育サービス提供者の専門性を促進し、品質を向上させることにある。本品質規準は、BVMP に所属するさまざまな分野の博物館・美術館、職業教育・職員教育の実施機関の同僚諸氏の提言により策定された。特に、本品質規準がドイツ、オーストリア、スイスの 3 カ国の博物館協会の協力により策定できたことは喜ばしい限りである。

『博物館教育普及活動に関する品質規準』（訳注：原語は **Qualitätskriterien für Museen: Bildungs- und Vermittlungsarbeit**）の作成に携わり、厳しい意見やアイデアにより本品質規準の完成に寄与されたすべての関係者各位に、この場を借りて心からの謝意を表したい。諸氏の積極的な協力なくして本書は生まれなかったであろう。特に、BVMP の州連合会・地域連合会の代表者ならびに協力機関の同僚諸氏が、2007 年初頭の非公開会議において「品質規準」の原案作りに貢献されたことをここに明記しておきたい。

また、シュテファン・ブレスキー氏、アンティエ・カイザース氏、カーリン・マース氏、ペーター・シュラー氏、ラルフ・シュテファン氏、ギーゼラ・ヴァイス教授におかれては、その強靱な忍耐力と精確さをもって最終的な編集作業に当たり、本書を完成させられたことに心からの謝辞を贈る。

なお、「博物館教育 (Museumspädagogik)」および「教育普及活動 (Vermittlungsarbeit)」という概念については、ドイツ語圏諸国で統一的な定義が確立されていないため、本品質規準ではこれらの概念を同義語として扱うことにした。

本品質規準により、今後、博物館における質の高い教育普及活動に関する議論がより活発に行われることを望む。

Dr. Hannelore Kunz-Ott (ハンネローレ・クンツ=オット博士)、BVMP 会長

Dr. Claudia Peschel-Wacha (クラウディア・ペシエル=ヴァハ博士)、オーストリア博物館教育文化普及者連盟会長

Dr. Simone Thalmann (ズィモーネ・タールマン博士)、メディアムス・スイス博物館教育普及専門職連盟会長

Dr. Michael Eissenhauer (ミヒャエル・アイセンハウアー博士)、ドイツ博物館協会会長

序章

「博物館とは社会とその発展に奉仕する一般に公開された非営利の恒久的な施設で、人々とその環境の有形および無形の証拠を研究、教育および娯楽のために収集、研究、伝達および展示をおこなうものである。」

ICOMによる「博物館」概念の定義
ICOM職業倫理規定（2003年）より

国際博物館会議 ICOM は、博物館という概念の定義の中で、博物館の根本的機能を挙げている。その定義によれば、博物館は「研究・教育」ならびに来館者の喜び、楽しみ、観賞に貢献する存在である¹。したがって、博物館は、人々が展示物との間に多様なつながりを築くためのコミュニケーションの場とも言える。つまり、博物館教育、教育普及活動とは、人間と展示物をつなぐかけ橋なのである。

近年の政治、経済、文化、社会の変化を背景に、社会も博物館もあらたな課題に直面している。現在の教育をめぐる議論は博物館への圧力を強め、社会の中で博物館が担うべき役割の重要性を強調している。収集、保存、研究、伝達という博物館が持つ独自の使命の中でも、博物館における教育普及活動は、ますますその重要性を増しているのである。また、今日では、来館者を中心とした博物館づくりこそ、博物館の活動における明確な主要課題となっている²。

こうしたパラダイムシフトは 1970 年代に始まった。当時、「ミューズの神殿から学びの場へ」³ や「あらゆる人々のための文化」⁴ といったスローガンと結びつけられていたこのパラダイムシフトは今日、博物館の基本理念に教育普及活動が加えられたことでますます加速している。2006年にライプツィヒで、2007年にフランクフルト・アム・マインで開催されたドイツ博物館協会の総会では、博物館教育こそ、博物館が担うべき将来性のある重要な責務であると定義された。ここで重視されたのは、観衆を動員することを目的としたその場限りの短期的なイベントを開催したり、来館者数の増加のみを目指したりするのではなく、質の高い持続的な体験や、変化に富んだ個人的な習熟プロセスを、いかに来館者に提供するか、という点である⁵。博物館とは、社会のあらゆる層が文化遺産に親しみ、その価値を共有できるように貢献すべき存在なのである。

本品質規準は、政治的責任を担う人々や博物館の運営機関、運営者に向けて作成されたものであり、こうした立場にある個人や団体に教育普及活動の多様性を説明するものである。同時に、博物館における教育普及分野において正規雇用の専門職員あるいはフリーランスの専門スタッフが自己評価・査定を行う際に、参考資料として活用できる構成になっている。

本品質規準の冒頭には、博物館教育普及活動における基本方針、すなわち活動領域ならびに課題と目標が挙げられている。それに続き、博物館教育の内容、対象者、教育普及の方法、担当職員の適正・能力、パートナー、必要条件といった、教育普及活動の6つのテーマを扱う。

I 基本方針

博物館教育普及活動とは、博物館・展覧会の展示物・コンテンツと来館者との間に対話を形成するものである。教育普及活動は、博物館のコンテンツを具体的に説明し、観賞者に対して疑問を提起し、挑発し、刺激し、新しい視野を開かせる。教育普及活動はすべての来館者を対象としており、来館者は教育普及活動を通じて、さまざまな方法で博物館とそのコンテンツから利益を得ることができ、博物館を知識の宝庫かつ体験の場として自主的に活用し、熟考することができる。教育普及活動は博物館という機関において不可欠な要素であり、指導的かつ持続的に博物館教育という使命を遂行するものである。

博物館における教育普及活動とは

博物館教育は、来館者を中心とした博物館づくりや、各博物館のジャンルに特化した教育普及活動に関するあらゆる問題を取り扱う。そのため、博物館で展示やイベントを企画・実施する際は必ず、企画当初より博物館教育を考慮に入れるべきである。それによって、展示物との出会いから始まる教育プロセスを、すべての来館者が最も良い形で享受することが可能になるのである。博物館教育とは、すべての来館者のための教育プロセスを企画・準備し、これを見守る活動である。

教育普及活動の役割

博物館における教育普及活動の役割は、以下の通りである。

- ・ それぞれの博物館・美術館の基本理念に合致した教育コンテンツを定義する
- ・ 博物館教育の対象者が主役となれる適切なプログラムを展開するために、来館者の構成と要望を分析する
- ・ 多様多様なプログラムにより、可能な限り多くの来館者層に文化教育を享受できる場を提供する
- ・ 職員や媒体による教育普及構想を開発し、実現する
- ・ 来館者の視点に立った、来館者に親しみやすい博物館づくりに貢献し、来館者が理解・観賞できるように努める
- ・ 博物館と他の教育・文化施設との間にインターフェースを構築し、長期的な協力体制を確立する
- ・ 教育普及プログラムを定期的に評価・査定し、その効果を検討し、品質を確保する

課題と将来への展望

・ どの年齢層にも学びの場を提供する

学習に対する考え方が常に変化するの、博物館においても例外ではない。そのため、個別のニーズに合ったインフォーマルラーニングとしての学びの場を、あらゆる人々が生涯を通じて得られる環境を整備する必要がある。

・ 多極化の進む社会

博物館教育普及活動は、文化の統合プロセスに必要な条件を創出し、異文化間の相互理解を深める能力を育む。

・ アイデンティティの確立に寄与する博物館の機能

博物館教育普及担当の専門職員（訳注：以下、ミュージアム・エデュケーター）は、博物館が情報交換や議論の場としての役割を果たす際にサポートを行う存在である。ミュージアム・エデュケーターは、来館者が文化遺産と触れ合い、過去・現在・未来をテーマとした社会的議論に参加することを促す。

・ 館蔵品の拡張、意義の多様性、新しいものに対する受容能力

博物館の収集は終わりのない作業であり、展示物の意義は多種多様であり、展示方法をひとつに固定することはできない。博物館教育普及においては常に、斬新かつ創造的な手法が必要とされるのはそのためである。これを実現するためには、実験を行い、あらたな手法やこれまでにない教育普及の形態を開発するための受容能力が求められる。

II 博物館教育の内容

博物館教育とは、それぞれの収蔵品や展示を基に、情報や体験を提供する活動である。同時に、展示物にふさわしい、全人的かつ専門領域を超えた活動であり、今の時代との関係と行動を促すための指針を示すことから、来館者は博物館教育によりさまざまな関連性を知ることができる。教育活動は博物館という機関を理解しやすいものにし、来館者が展示物との個人的なつながりを築くための手助けとなる。

収蔵品に特化した博物館教育

博物館教育普及活動の起点かつ中心となるのは収蔵品である。収蔵品の内容は、考古学博物館、民族学博物館、野外民俗博物館、記念館、歴史博物館、文化史博物館、美術館、自然博物館、技術・産業博物館、民俗学博物館によって大幅に異なる。したがって、博物館教育を実施する際は、博物館のジャンルに応じて、収蔵品の特性に沿った内容と形態を考慮すべきである。例としては、手工芸技術のデモンストレーション、歴史的機器・機械の実演、美術の歴史的発展の説明、鑑識眼・審美眼の開発、歴史的関連性の説明、民主主義への意識強化、異文化に対する理解の啓発、環境意識の向上などが挙げられ、博物館の種類と同様、博物館教育普及活動には多種多様なアプローチがある。

展示物にふさわしい手法で行われる博物館教育

博物館は、展示物を歴史の証として提示し、その複雑な内容と多様な解釈の可能性を伝える場である。展示物をさまざまな関連性や背景とともに供覧することで、観賞者は展示物の多面性を理解することができる。博物館において質の高い教育普及活動を提供するには、展示物の内容だけでなく、展示物の保存にもふさわしい手法を考慮しなければならない。

現在との関連性

博物館は、未来のために保存し、現在においては方向性を示すという目的で、過去の証を収集する。特に、博物館における教育普及活動には、展示物と今の時代との関連性を来館者により理解しやすいものにする使命がある。現在と関連づけたプログラム構成により、観賞者はより容易に認識を深めることができる。

行動を促すための指針

自ら調査、発見、あるいは創作するといった、来館者の活動を促すような展示構成や教育普及プログラムは、来館者のモチベーションを特に上げるものである。こうした展示やプログラムは、学習プロセスを支え、展示物など、博物館が提供するコンテンツや、学術調査・研究の手法を理解しやすくするための助けとなる。

機関としての博物館と、各博物館が扱う専門分野への理解

「博物館」という機関を紹介する際には、その学術研究の方法と目的も同時に伝えられなければならない。また、来館者が考古学、生物学、民族学、美術史、民俗学といった、各博物館が扱う専門分野の研究方法について手ほどきを受けられるような機会も提供すべきである。

「博物館教育の内容」のチェックリスト

- ・ 収蔵品の特性に沿っているか
- ・ 展示物にふさわしいか
- ・ 現在との関連づけがなされているか
- ・ 行動を促すための指針となっているか
- ・ 全人的な教育内容になっているか
- ・ 専門領域を超えた活動になっているか
- ・ 専門分野の研究方法の紹介がなされているか
- ・ 博物館の果たすべき役割、機能、活動の仕方に沿っているか
- ・ その他

Ⅲ 博物館教育の対象者

博物館教育普及活動に携わるエデュケーターは、すべての来館者のために、またすべての来館者とともに活動する。来館者の要望はそれぞれに異なることから、ミュージアム・エデュケーターは、博物館が提供する文化教育にできるだけ多くの人々が参加できるよう、すべての来館者層だけではなく、今後、来館者となる可能性のある人々のためにも、プログラムを開発すべきである。

来館者層に応じて細分化されたプログラムづくり

博物館には、あらゆる年齢層、社会層の人々が来館する。そのため、具体的なプログラムづくりの段階でも広報活動を行う際にも、**博物館教育の対象者に応じた細分化**が必要である。博物館教育の対象者の文化的背景や関心のある分野、博物館に求める内容、来館の理由、心理的・身体的欲求、予備知識など、対象者について知ることが質の高い博物館教育を提供するには必ず必要となる基本である。こうした条件が、博物館への来館、また、来館者が展示物や展示内容と対峙する姿勢を左右する。

博物館における教育普及活動は、すでに来館者であり、今後もリピーターとして来館が予想される人々を対象とする一方で、「**非来館者**」、つまり博物館教育に何らかの理由で参加していない、あるいは参加できない人々にも向けられている。

「博物館教育の対象者」のチェックリスト

個人および団体での来館者

- ・ 独身者
- ・ カップル
- ・ 家族
- ・ 友人同士
- ・ リピーター
- ・ 観光客
- ・ 初めての来館者
- ・ インターネット利用者
- ・ 企業の職員

年齢層

- ・ 幼児、幼稚園児
- ・ 児童・生徒
- ・ 職業訓練生
- ・ 学生
- ・ 就業年齢の成人
- ・ 高齢者

出身地

- ・ 地元市町村
- ・ 近隣地域
- ・ 遠方地域
- ・ 外国

特別な事情のある博物館教育の対象者

- ・ 障害者
- ・ 移民の背景を持つ人々
- ・ 未来館者、非来館者

来館の動機

- ・ 教養のため
- ・ 楽しみのため
- ・ 観賞のため
- ・ 余暇活用のため
- ・ 専門的な関心がある
- ・ コミュニケーション
- ・ 社会とのつながりを持ちたい

来館者の所属先

- ・ 幼稚園、保育園
- ・ 小学校から高校までの教育機関
- ・ 青少年教育施設
- ・ 成人教育を行う機関
- ・ 総合大学および単科大学
- ・ 団体、クラブ

広報とサポート

- ・ 博物館教育に携わる青少年指導者
- ・ 寄付者、スポンサー
- ・ 後援会や友の会の会員

バリアフリーであること

多様なプログラムを提供することで、すべての人々に対して**知的、社会的、知覚的、身体的なバリアのない状態**で博物館とその展示物へのアクセスを可能にすることは、教育普及活動における使命のひとつである。

「バリアフリー」のチェックリスト

- ・ 博物館の建物の構造と展示構成がバリアフリーになっているか
- ・ プログラムやイベントがバリアフリーな構成になっているか
- ・ バリアフリーなサービスが提供できているか
- ・ 障害者が来館した際にいつでも対応できる職員が常駐しているか
- ・ 障害者自助団体との連携があるか
- ・ 教育普及活動の参加者と協力し、次の人々が来館しやすい環境を整備する
 - ドイツ語を母語としない人々
 - 運動機能が制限されている人
 - 聴覚障害者
 - 弱視および視覚障害者
 - 学習障害を持つ人々
 - 精神障害あるいは知的障害のある人々

IV 博物館教育の方法

実物の展示物（オリジナル）や展示内容、また、博物館そのものとの出会いを円滑に実現するため、質の高い教育普及活動を目指す際には多種多様な方法が用いられる。質の高い教育普及活動はこうして来館者の認識と知覚を活性化させ、来館者が五感すべてを使って自発的に学べるよう、多種多様な手法を用いて手助けを行う。

来館者を中心に据えた展覧会の企画・デザイン

展示は博物館教育普及活動の根本である。展覧会を企画・デザインするには、来館者を主演とする考え方を重視し、教授法の経験や知識を考慮に入れるべきである。

「展覧会の企画・デザイン」のチェックリスト

- ・ 順路と順路図
- ・ 展示物の配置
- ・ 展示物の説明書き、解説パネル
- ・ パソコン等、適切なメディアに関する情報
- ・ 照明
- ・ 展示エリアの間仕切り
- ・ 椅子等の設置
- ・ その他

エドゥケーターによる教育普及活動の多様性

来館者と直接コミュニケーションを取ることで、ミュージアム・エドゥケーターは来館者の質問や関心事項に直接耳を傾け、適切な対応をとることができる。エドゥケーターはこの時、対象者にふさわしい方法を選択し、教育普及活動への参加者のニーズに応えなければならない。エドゥケーターは自身の裁量により、多種多様な方法で教育プログラムを構成することができる。

「エドゥケーターによる教育普及活動」のチェックリスト

口頭によるプログラム

- ・ ガイドツアー、対話型ガイドツアー
- ・ 生徒による生徒のためのガイド、高齢者による高齢者のためのガイド、等

- ・ 座談会
- ・ グループディスカッションおよびディスカッションイベント
- ・ パネルディスカッション
- ・ アーティストや専門家を招いたトークイベント
- ・ 講演会

行動を促すプログラム

- ・ 参加型プログラム
- ・ 造形プログラム
- ・ 模写・模造
- ・ 手工芸的な創作プログラム
- ・ 機械の操作デモンストレーション

専門領域を限定しないプログラム

- ・ 昔の遊び／昔の生活の再現／歴史的事件の再現
- ・ 実験考古学の手法を駆使したプログラム
- ・ 演劇や舞踏による表現
- ・ 文学的アプローチによるプログラム
- ・ 比較音楽学的アプローチによるプログラム

ゲーム／連想

- ・ 連想ゲーム
- ・ 「中国の籠」
- ・ クリエイティブ・ライティング
- ・ その他

媒体による教育普及活動の多様性

来館者に行動を促し、展示物についての認識をさらに深めることのできる充実した情報を発信するためには、展示要素を的確に使用すべきである。展示要素とは、観賞者に展示内容を伝え、展示物および展示テーマと対峙するためのあらたな動機と機会を繰り返し提供する、さまざまな媒体を意味する（訳注：展示要素は媒体であり、展示物ではない）。

「媒体による教育普及活動」のチェックリスト

教授法上、必要となる媒体

- ・ 実験
- ・ 双方向型体験ステーション
- ・ 探し物ゲーム、学習ゲーム
- ・ ガイド用かご、ガイド用カート
- ・ 触ったり、試したりできる要素（ハンズ・オン＝直接手で触れて体験すること）
- ・ ミュージアム・スーツケース（訳注：博物館外での教育普及活動に使用）

テキスト

- ・ 文章や図のパネル
- ・ 展示室の内容・テーマを解説するカード
- ・ 読書・閲覧エリア
- ・ 子ども用カタログ
- ・ 学校教員用のガイドや評価シート
- ・ ワークシート
- ・ ショートガイド
- ・ ブライユ点字で書かれた文章／音声ガイドステーション

メディア

- ・ 音声ガイドおよびマルチメディア・ガイド
- ・ 映画・ビデオ
- ・ パソコン・ステーション
- ・ その他

同時開催のイベントプログラム

来館者層に応じて細分化されたイベントを用意することで、展示物や展示テーマと対峙する動機を来館者に繰り返し提供することができる。その結果、複雑な内容が徐々に理解可能なものとなり、人々の関心を呼び覚ますことができ、教育普及活動の新規対象者へのアプローチとさらなる来館者の獲得が可能になる。

「同時開催イベントプログラム」のチェックリスト

- ・ ガイドツアー
- ・ トークイベント（パネルディスカッション、等）

- ・ ワークショップ
- ・ シリーズ講演会
- ・ 講習会およびセミナー
- ・ 教員および博物館教育に携わる青少年指導者を対象とした研修
- ・ 夏休み／冬休みプログラム
- ・ 子どもの誕生日会の開催
- ・ 夜間イベント
- ・ ミュージアム・フェスティバル
- ・ 異文化に触れるイベントや活動
- ・ 国際博物館の日
- ・ 特別夜間開館日、夜間延長開館日
- ・ 特別プログラムの開催日
- ・ その他

記録、検証、評価

教育普及活動の遂行にあたっては、品質を繰り返し検証することが求められる。教育普及活動の内容は、言葉や写真で記録するだけでなく、さらなる発展の可能性を評価・査定によって常に確認し、プログラムの改善を繰り返すことで、さらに充実したものになるよう、務める必要がある。

「評価」のチェックリスト

- ・ ゲストブック
- ・ 投書箱
- ・ 個人の来館者や特定のグループへのインタビュー
- ・ アンケート
- ・ 事前評価（訳注：展覧会開催前に実施）
- ・ 同時評価（訳注：展覧会の開催と同時に実施）
- ・ 総括的評価（訳注：展覧会開催後に実施される総合評価）
- ・ その他

V 教育普及担当職員に求められるスキル

博物館教育普及活動においては、多種多様な課題に対応しなければならない。そのため、ミュージアム・エデュケーターには、館藏品に関する専門知識や、教育学的見地から問題を提起するための専門知識など、高いスキルが求められる。このほか、博物館学の基礎知識、コミュニケーション能力、人と関わることに喜びを見いだす能力、積極性などが、適正として不可欠である。

ミュージアム・エデュケーターになるために必要な教育

博物館で専任のミュージアム・エデュケーターとして活動するには、大学で人文・社会・自然科学のいずれかを専攻するか、コミュニケーション科学、博物館学、教育学を修めて卒業した者でなければならない。

求められる**専門知識**は博物館の種類によって異なるが、自然史や技術史、精神科学あるいは人文科学を専修する学科で修得できるレベルや内容を指す。**博物館学の知識**とは、機関としての博物館とその多様な任務、博物館のジャンル、組織構成、運営機関に関する知識を意味する。さらに、**一般教育学**の基礎知識やさまざまな学習理論の知識を持ち、各専門分野の教授法に精通していることが、来館者と直接、触れ合う職務を遂行する上での基礎となる。

博物館教育において独自に求められるスキル

来館者研究に関する知識は、博物館教育の対象者にふさわしく、また、来館者が主役とされる教育プログラムを提供するための基本である。

博物館教育において、言語は重要な媒体である。したがって、非言語コミュニケーションと同じように、言語を使って効果的に表現する能力も、必要とされる**コミュニケーション能力**である。**メディアリテラシー**も、博物館において時宜にかなった展示を行い、教育普及活動を遂行するためには欠かせない能力である。

博物館教育普及活動という職業においては、正規雇用の専門職員だけではなく、フリーランスやボランティアのスタッフも従事している。そのため、管理職のポジションにあるミュージアム・エデュケーターには**人事管理**の知識も必要である。ここでは、職員への指導のほか、職員の職業訓練や職員研修も職務範囲とされる。

プロジェクトマネジメントの基礎知識は、広範な教育普及プログラムの企画、準備、調整、実現で成果を上げるのに不可欠である。

専門知識以外では、来館者や同僚、連携機関とやり取りする上での自覚や社会的スキルが、**職業人としての必須条件**である。自己批判能力や向上心も、必要とされる特性に数えられる。また、職務上、複雑な課題と向き合わなければならないことから、**夢中になれる能力と積極性**が十分に備わっている必要がある。さらに、教育普及活動に従事する者は、夜間や週末などの勤務時間に対しても柔軟に対応できなければならない。

必要とされる能力や知識の多くは、ミュージアム・エデュケーターとして活動しながらでも修得できるものである。そのためには、継続教育や研修を受ける心構えが常にできていることが必要である。

「教育普及担当職員に求められるスキル」のチェックリスト

- ・ 大学卒業資格
- ・ 館藏品に関する専門知識
- ・ 博物館学の知識
- ・ 教育学的なスキル
- ・ 異文化に対する理解力
- ・ 各専門分野の教授法に関する知識
- ・ 言語によるコミュニケーション能力
- ・ 非言語コミュニケーション能力
- ・ メディアリテラシー
- ・ 事務能力
- ・ プロジェクトマネジメントの知識
- ・ 人事管理の知識
- ・ 部署を統括し、フリーランス・スタッフを調整するマネジメント能力
- ・ チームワークにおける協調性
- ・ 夢中になれる能力と積極性
- ・ 継続教育や研修に対する心構え
- ・ その他

VI パートナー

ミュージアム・エデュケーターは数多くのパートナーと連携してプログラムを遂行する。他の教育・文化施設、団体・クラブ、連盟との連携は、相互の情報交換や勤務する博物館からのサポートと同様、ミュージアム・エデュケーターの活動にとって重要である。

博物館内のパートナー

ミュージアム・エデュケーターは、すべての展覧会および博物館の企画時に早期の段階から携るべきである。ミュージアム・エデュケーターは来館者サービスと協力し、友の会やスポンサー、市民ボランティアへの対応をサポートし、広報担当職員とも連携しながらプログラムの企画・計画を行う。

外部のパートナー

博物館教育普及活動は、博物館教育プロジェクトの推進に重要となり得る公共施設、財団、企業や個人とのネットワークによって具体化される。そのため、政治・文化・教育関連施設や社会福祉施設、また、観光・レジャー産業、報道・メディア、団体・クラブ、企業、連盟といったパートナーとの連携が、専門的なサポートを獲得し、さまざまな層の来館者に直接アプローチするために必要である。また、市町村・地域レベル、また地域を超えたレベルで、さまざまな分野のパートナーと協力したプロジェクトを実現するための努力が求められる。さらに、教育普及活動を博物館外部のより幅広いネットワークに連結できるよう、こうした協力体制は強化されなければならない。同時に、博物館外部のパートナーが持つ経験や期待が博物館内部へと伝えられるコミュニケーション経路も確立すべきである。

「パートナー」のチェックリスト

- ・ 文化政策関連の行政窓口
- ・ 他の博物館
- ・ 報道、メディア
- ・ 幼稚園
- ・ 学校
- ・ 青少年センター
- ・ 少年文化館
- ・ 大学
- ・ 民間の社会教育施設
- ・ 観光施設
- ・ 団体・クラブ
- ・ 連盟、企業
- ・ 財団
- ・ スポンサー
- ・ 専門家
- ・ その他

博物館教育普及活動に必要な諸条件

ミュージアム・エデュケーターは、高い品質と専門性をもって任務を遂行するため、相応に整備されたインフラ、物的・人的・資金的資源、基本理念に基づいたサポートを必要とする。

展示エリア

博物館内で一般の立ち入りが可能なエリアでは、**可能な限り来館者に配慮した設備**が求められる⁶。こうした公開エリアは、案内表示を使って見つけやすく、バリアフリーにアクセスでき、機能的で親しみやすく、美しいデザインで設計されるべきである。また、公開エリア内では情報とコミュニケーションをいつでも確保できるよう、配慮されていなければならない。展示物はすべての来館者が見やすいように設置され、専門的な情報はわかりやすく表現し、休憩や談話を楽しむためのスペースや椅子を用意する必要がある。

博物館教育普及活動のためのエリア

来館者との活動は、一般の立ち入りが可能な展示エリアだけで行われるのではない。そのため、工房やアトリエ、資材保管庫を備えた来館者のためのラボ、セミナー・レクチャー・プレゼンテーション用のスペースなど、**専用エリア**を設けるべきである。「舞台裏」で継続的に行われる企画・事務作業には、最新の技術を備えたオフィスやフリーランス・スタッフのための控室、打ち合わせスペースが必要である。

サービスエリア

来館者のためのインフォメーションセンター、レジ、団体用クロック、トイレ、喫茶室、ミュージアムショップ、休憩スペース、待ち合わせエリアなど、博物館内で一般の立ち入りが可能なサービスエリアは、施設の中央に設置すべきである。こうしたサービスエリアは、手入れが行き届き、明るく親しみを感じさせ、子どもの居場所としてふさわしく、バリアフリーに設計されている必要がある。

人材の確保

実り多く、継続性のある教育普及活動のバックボーンを支えるのは、**正規雇用のミュージアム・エデュケーター**である。ミュージアム・エデュケーターを正規雇用することは博物館職員の採用計画で定められており、給与は受けた教育と任務内容に応じて査定される。

任務範囲の規模によっては、同様のスキルを備えたフリーランス・スタッフのサポートを受ける。フリーランス・スタッフには、博物館で長期的に勤務できるように適正な報酬が支払われなければならない。人材育成や研修による職員のスキル向上に必要な財源は、州の年間予算で確保されている。

財源

人事予算のほか、教育普及活動のための資材調達、記録・公表、情報・広報資材の収集、企画・事務作業、プロジェクト、教育普及のための企画展示を遂行するため、博物館教育普及活動専用の予算が必要である。教育普及部門は、必要があれば外部資金を調達し、教育普及活動に用いる。

基本理念に基づいたサポート

博物館教育普及活動は、博物館が果たすべき使命として博物館の基本理念に定義されている。博物館の運営機関と理事には、博物館が教育普及活動という使命を遂行するために必要な諸条件を整備する任務がある。博物館の運営機関と理事は、教育普及の理念が博物館全体に浸透するよう、努めなければならない。

「博物館教育普及活動に必要な諸条件」のチェックリスト

- ・ 来館者に親しみやすい展示エリアとなっているか
- ・ 博物館教育普及活動のための専用エリアが確保されているか
- ・ サービスエリアが整備されているか
- ・ スキルを備えたスタッフが十分に確保されているか
- ・ 人事と設備のための財源が確保されているか
- ・ 基本理念に基づいたサポートが提供されているか
- ・ 博物館が果たすべき使命として基盤が確保されているか
- ・ その他

著者一覧

- Ulrich Brand-Schwarz, Museum Herxheim (ウルリヒ・ブランド＝シュヴァルツ、ヘルクスハイム博物館)
- Stefan Bresky, Deutsches Historisches Museum, Berlin (シュテファン・ブレスキー、ドイツ歴史博物館、ベルリン)
- Renate Dittscheidt-Bartolosch, Sprengel-Museum Hannover (レナーテ・ディットシャイト＝バルトロシュ、シュプレングエル博物館、ハノーヴァー)
- Hans-Georg Ehlers-Drecol, Museumsspeicher Stade (ハンス＝ゲオルク・エーラーズ＝ドレコル、シュターデ博物館)
- Dr. Andreas Grünewald-Steiger, Bundesakademie für kulturelle Bildung, Wolfenbüttel (アンドレアス・グリュエネヴァルト＝シュタイガー博士、ドイツ連邦文化教育アカデミー、ヴォルフエンビュッテェル)
- Thomas Hafen, Schwarzwälder Freilichtmuseum Vogtsbauernhof, Gutach (トーマス・ハーフェン、シュヴァルツヴァルト地方野外民家園フォークツ・バウアーンホーフ、グータッハ)
- Antje Kaysers, Badisches Landesmuseum Karlsruhe (アンティエ・カイザーズ、バーデン州立博物館、カールスルーエ)
- Prof. Dr. Stephan A. Kolfhaus, Fachhochschule Solingen (シュテファン・A・コルフハウス教授、ゾーリンゲン単科大学)
- Elke Kollar, Bamberg (エルケ・コラー、バンベルク)
- Dr. Hannelore Kunz-Ott, Landesstelle für die nichtstaatlichen Museen in Bayern, München (ハンネローレ・クンツ＝オット博士、バイエルン州内の非州立博物館のための州事務所)
- Ute Lefarth, Kunstmuseum Wolfsburg (ウーテ・レファルト、ヴォルフスブルク美術館)
- Karin Maaß, Saarbrücken (カーリン・マース、ザールブリュッケン)
- Dr. Ulrich Paatsch, Arbeitsgruppe für empirische Bildungsforschung e.V., Heidelberg (ウルリヒ・パーチュ、登記社団「実験教育研究会」、ハイデルベルク)
- Elke Schaar, Stadtgeschichtliches Museum Leipzig (エルケ・シャール、ライプツィヒ市史博物館)
- Karin Schad, Rheinisches Landesmuseum Bonn (カーリン・シャード、ライン州立美術館、ボン)
- Peter Schüller, K20 K21, Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen, Düsseldorf (ペーター・シュラー、K20K21 ノルトライン＝ヴェストファーレン州美術館、デュッセルド

ルフ

- Ralph Stephan, Archäologisches Hegau-Museum, Singen (ラルフ・シュテファン、ヘーガウ考古学博物館、ズィンゲン)
- Prof. Dr. Gisela Weiß, Studiengang Museologie, Hochschule für Technik, Wirtschaft und Kultur, Leipzig (ギーゼラ・ヴァイス教授、ライプツィヒ技術・経済・文化大学、博物館学)
- Dr. Claudia Peschel-Wacha, Österreichisches Museum für Volkskunde, Wien/Österreich und Vorsitzende des Österreichischen Verbands der KulturvermittlerInnen im Museums- und Ausstellungswesen (クラウディア・ペシエル=ヴァッハ博士、オーストリア民俗学博物館、オーストリア/ウィーン、オーストリア博物館教育文化普及者連盟会長)
- Dr. Simone Thalman, Präsidentin von Mediamus – Schweizerischer Verband der Fachleute für Bildung und Vermittlung im Museum, Heimberg/Schweiz (ズィモーネ・タールマン博士、メディアムス・スイス博物館教育普及専門職連盟会長、スイス/ハイムベルク)

諸氏の厳格な校閲に対し謝辞を贈る：

- Franziska Dürr, Aargauer Kunsthaus, Aarau/Schweiz, und Lehrgang Kuverum/Schweiz (フランツィスカ・デュル、アールガウ美術館、スイス/アーラウ、ミュージアム・エデュケーターのための継続教育機関クヴェルム所属)
- Dr. Carola Marx, Sächsisches Staatsministerium für Kultus, Dresden (カローラ・マルクス博士、ザクセン州教育省、ドレスデン)
- Dr. Rolf Voss, Vorstandsmitglied des Deutschen Museumsbundes, Regionalmuseum Neubrandenburg (ロルフ・フォス博士、ドイツ博物館協会理事、ノイブランデンブルク市地方博物館)
- Nicole Zellweger, freiberufliche Kulturvermittlerin und Vorstandsmitglied von Mediamus, Bernex/Schweiz (ニコル・ツェルヴェーガー、フリーランス・エデュケーター、メディアムス理事、ベルネックス/スイス)

-
- ¹ ICOM のドイツ、オーストリアおよびスイスの各委員会の公式ドイツ語翻訳とは違い、本書では英語版の「for purposes of study, education and enjoyment」は「研究、教育、娯楽のために」と訳されていない。ドイツ博物館協会は既に、「enjoyment」のよりの確な訳語は「喜び、楽しみ、享受」である、と指摘してきた：Standards für Museen, hg. vom Deutschen Museumsbund e.V., gemeinsam mit ICOM-Deutschland, Kassel/Berlin (登記社団ドイツ博物館協会と ICOM ドイツ委員会の共同編集「博物館のための標準」、カッセル/ベルリン) 2006 年 P.22、註 1
- ² Bernhard Graf: Besucherorientierung als Leitziel der Museumsarbeit in der Bundesrepublik Deutschland. In: Geöffnet! Das Museum für den Besucher. Tagungsbericht des 10. Bayerischen Museumstags. München (ベルンハルト・グラーフ著『ドイツ連邦共和国の博物館活動における主要目標としての来館者指向』、「開かれた！来館者のための博物館 第10回バイエルン州博物館の日の大会報告書」所収、ミュンヘン) 2000 年、P.21～29
- ³ Ellen Spickernagel und Brigitte Walbe (Hg.): Das Museum. Lernort contra Musentempel. Gießen (エレン・シュピカーナーゲル&ブリギッテ・ヴァルベ編集：『博物館、学びの場 VS ミューズの神殿』、ギーゼン) 1979 年
- ⁴ 1970～1993 年までフランクフルト・アム・マイン市の文化部門責任者を務めたヒルマー・ホフマンの本のタイトルである。Hilmar Hofmann: Kultur für alle. Perspektiven und Modelle. Frankfurt am Main. (ヒルマー・ホフマン著「全ての人のための文化、展望とモデル」フランクフルト・アム・マイン、1979 年
- ⁵ このことは、とりわけ「イベントは引きつけ、内容はつなぐ」という大会名で行われたボンの BVMP 2000 年大会によって明確にされた。これに関しては、Beatrix Commandeur、Dorothee Dennert (Hg.): Event zieht - Inhalt bindet. Besucherorientierung auf neuen Wegen. Bielefeld (ベアトリクス・コマンデュア及びドロテー・デナート編集『イベントは引きつけ、内容はつなぐ。新たな道を歩む来館者指向』ビーレフェルト、2004 年参照。
- ⁶ Judy Rand: The 227-Mile Museum, or, Why We Need a Visitors' Bill of Rights. In: Curator - The Museum Journal (ジョディ・ロンド著『227 マイル博物館、あるいはなぜわれわれには来館者の「民権条例」が必要なのか』「博物館ジャーナル 44」 2011 年 1 月 1 号 P.7 以下所収、Hermann Schäfer: Anlocken - fesseln - vermitteln. Was Besucherforschung uns lehrt (e): ein Plädoyer für die Grundrechte der Besucher. In: Annette Noschka-Roos (1Hg.): Besucherforschung in Museen. Instrumentarien zur Verbesserung der Ausstellungskommunikation. Deutsches Museum (ヘルマン・シェーファー著『引きつけ、魅了し、伝える。来館者研究がわれわれに教えたこと、教えること。来館者の基本的権利に賛成する弁論』(アネット・ノシュカ＝ローズ編集「博物館来館者研究、展示コミュニケーション改善のための手段」、ドイツ博物館) 2003 年 P.83 ～109 所収